

法人(事業所)理念		リフライズは、子どもたちの「できる」を広げ、未来への一歩を支える場所です。 子どもたちが放課後の時間を有意義に過ごしなが、未来への希望と自信を育むことを目指しています。		
支援方針		<ol style="list-style-type: none"> <li>安心できる居場所の提供 学校や家庭以外の第3の安心できる場所として、子どもたちがリラックスしながら自分のペースで過ごせる環境を整えます。</li> <li>一人ひとりの可能性を尊重 子どもの特性や個性を理解し、「できない」ではなく「どうすればできるか」に目を向け、成長を支援します。</li> <li>社会性と自立のサポート コミュニケーション能力や日常生活のスキルを育む活動を通じて、子どもたちの自立を応援します。</li> <li>家族とともに歩む支援 保護者との連携を重視し、家庭や学校との橋渡しを行いながら、子どもたちを包括的に支えていきます。</li> <li>楽しみながら学ぶ機会の提供 遊びや学びを組み合わせた活動を通じて、子どもたちが楽しみながら新しいことに挑戦し、成功体験を積み重ねられるよう支援します。</li> <li>地域とのつながりを築く 地域社会と連携し、子どもたちが地域の一員として成長できるよう、支援の輪を広げていきます。</li> </ol>		
営業時間		9 時 から 18 時 まで	送迎実施の有無	あり
		支援内容		
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の維持の為、保護者と連携を取りながら、都度、心身の状態を把握。</li> <li>1日の生活リズムにメリハリをつけて過ごせるように、子どもたちのペースに合わせて利用時間数を調整し、活動的に過ごせるような環境を設定。</li> <li>生活スキルの獲得に向けて、調理や外出等、活動を通して習得できるように、子どもたちの特性に応じた支援内容を実施。</li> <li>社会性の習得も出来るように、公共交通機関を利用した活動や公共施設での活動も実施。</li> </ul>		
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>無理のない範囲で、体を動かす機会を適度に設けられるように、遊びをきっかけとする等、活動内容を工夫している。</li> <li>体の使い方の苦手さの有無など、子どもたちの特性も把握し、保護者とも共有。</li> <li>個別で必要となるような支援があれば、専門職により支援計画を立案し、個別の支援を実施。</li> <li>日々の支援を通して、子どもたちの動作を見守る中で、苦手さや難しさの箇所を把握し、必要に応じて保護者とも共有。</li> </ul>		
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の特性の理解と、特性や本人の性格なども考慮するといった、個々に合わせた支援。</li> <li>主体的な行動を習得できるように、時間を意識しながら過ごすことや自分の持ち物の管理、予定に合わせた行動や気持ちの切り替え等、必要なスキルの意識づけの声掛け。</li> </ul>		
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを言語化して相手に伝える力を習得できるように、他者とやり取りを行う経験を増やしていけるように環境設定。</li> <li>個々のコミュニケーションスキルを把握し、保護者とも共有。</li> <li>状況に応じた言葉選びや表現方法の理解が出来るように、随時、一緒に振り返りの機会を設ける。</li> </ul>		
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>年代関係ない関わり環境下でのコミュニケーションスキルの習得が出来るように関わり場の提供と関わりの中介。</li> <li>相手に応じた関わり方の習得が出来るように、状況に応じて助言をする。</li> <li>イライラやもやもや等のマイナスな感情の消化等、気持ちの折り合いのつけかたを学べるような環境設定。</li> <li>他者との適切な距離の取り方を学べるように、自分と相手の感情の違い等について学べるような環境設定。</li> </ul>		
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や学校、事業所での様子の共有を継続的に実施し、都度、不安感や困り感等を把握することで、状況に応じて必要となる支援を保護者と共に検討。</li> <li>連絡ツールを用いて、気軽に相談できる環境設定。</li> <li>個々の状況に応じて、専門職も介入する。</li> </ul>	職員の質の向上	職員の意識改革と倫理観の向上のため、以下のことを重視しています <b>【子どもの権利擁護】</b> 障害児通所施設で働く職員一人ひとりが、子どもの権利擁護の意識を持ち、常に子どもの最善の利益を考え行動する <b>【倫理的な行動】</b> 職員は、高い倫理観を持ち、責任感を持って業務に取り組む <b>【研修】</b> 定期的な研修を通して、法令や倫理に関する知識を深め、意識を高める <b>【相談しやすい環境】</b> 職員同士が相談しやすい環境を作ることで、問題の早期発見・解決に繋げる	
移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>移行に向けて、具体的なイメージをもちやすいように、移行先の具体的な情報等を保護者と共有。</li> <li>移行先の見学等も必要に応じて、支援員が同行。</li> </ul>			
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や利用している福祉サービスの事業所と連携。</li> <li>個々の特性に応じた適切な支援が統一出来るように、適宜、関係機関で連携会議を実施。</li> </ul>			
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じられるようなイベント(もちつき、恵方巻づくり、いちご狩り、お花見、クリスマス 等)</li> <li>公共交通機関を利用した外出。</li> <li>公共施設での活動。</li> <li>様々な仕事への興味をもてるようなイベント(お好み焼きづくり、牡蠣打ち体験、飲食店での食事、洗車の手伝い、買い物 等)</li> <li>集中力の習得につながるような活動(製作活動、単調な作業内容の活動(お菓子の袋の切り分け 等)、知育遊び 等)</li> <li>避難訓練</li> </ul>		